

令和 6 年度
学校関係者評価報告書

学校法人 江楠学園 佐賀工業専門学校

1. 学校関係者評価の目的

学校法人江楠学園佐賀工業専門学校における学校関係者評価は平成19年に学校教育法及び学校教育法施行規則の改正により、自己評価、学校関係者評価の実施・公表、評価結果の設置者への報告に関する規程が新たに設けられたことを受け「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って以下のことを目的として実施する。

- ① 自己点検評価の結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己点検評価結果の客観性・透明性と併せて信頼度を高める。
- ② 学生・卒業生、関係業界、中学校・高等学校、保護者・地域住民、所轄官庁・自治体の関係部局など、専修学校と密接に関係する方々からの理解促進や連携協力により学校運営の改善を図る。

2. 学校関係者評価委員の構成

学校評価委員は、以下の人員で構成する。

- ・ 関連業界等関係者 5名
- ・ 教育に関し知見を有する者 1名
- ・ 卒業生 1名

3. 学校関係者評価の実施方法

令和7年5月21日（水）

佐賀工業専門学校 多目的室

参加者 委員 7名 事務局 7名

学校関係者評価委員の皆様には、事前に郵送等で配布した報告書並びに本校のホームページ上で公開されている学校情報等で理解を深めていただいたうえで、令和6年度自己点検評価の成果をもとに意見交換を通して得られた意見を取りまとめた。

4. 学校関係者評価委員からの意見並びに特記事項

（1）教育理念・目標

❖特記事項

- ・ 自動車学科においては、新技術等の進歩にも対応できるメカニックを養成することが求められ関係業界団体並びに職業実践専門課程の特色である企業連携の特色を生かし整備業界の要望に応えていく。
- ・ エアポートサービス学科においては、インバウンドによる訪日客の大幅な増加により業界から求められる質の高いグランドハンドリングスタッフの養成に取り組まなければならない。
- ・ 在学中はもとより卒業後の社会人としてのコミュニケーション能力の向上など人間力の育成にも応えていく必要があり、その基礎を確立させる。
- ・ 学校理念等の周知については、あらゆる機会が発信に努め学校評価アンケートなどにお

いて把握する。なお、周知の確認のために回収率の向上を図る必要がある。

(2) 学校運営

❖特記事項

・教育活動等の公開については、ホームページにおける情報発信を適切に執り行うとともにホームページ以外での発信ツールの活用を模索する。

(3) 教育活動

❖特記事項

・教育活動では大きな課題はないが自動車学科においては、自動車の新機構・技術に対応できるようための研修会等へ積極的に参加する。エアポートサービス学科においては、座学と実習のバランスを図ることで、より即戦力として活躍できる内容となるようカリキュラムを編成する。

(4) 学習成果

❖特記事項

・退学者の防止に向けた取り組みについては、学生の心情把握に努めるとともに些細な変化に早期に対応していくことが望まれる。この際、保護者との密接な連携が重要である。

・卒業生の活躍などの把握は、企業採用担当者等との情報交換時などを利用し情報収集に努め職員間で共有することが重要である。

*委員からの意見

・卒業生による体験談などを紹介する時間はあるか？

(学校から：企業連携並びに校内における企業説明会など機会あるごとに卒業生との交流を図れるよう企業には支援・協力をいただいている。このような場面についても引き続きHP等で発信していくことで理解につながる。)

(5) 学生支援

❖特記事項

・健康・衛生管理についての講座の開設について新設を図りたい。健康管理組織体制については、同法人の高等学校保健室（同敷地内）との連携で補っている。

・課外活動の支援体制は、専門学校九州ブロック体育大会佐賀大会に向けて開催競技に参加する学生に対する支援を万全にする。また、競技種目の担当校として大会を教職員一丸となりサポートする。

*委員からの意見

・卒業後の離職状況等の把握について

(学校から：卒業生の正確な離職数については把握できていない。今後、把握要領等について検討していく。)

(6) 教育環境

❖特記事項

- ・新教科書の導入に伴う新教材（二輪車）の導入ができた。
- ・自動車学科のインターンシップ再開については、整備業界の現況を知る上においても再開が求められる。

（学校から：自動車学科長より、インターンシップの重要性から企業団体等との連携を図り実行したい。）

(7) 学生募集

❖特記事項

・前年度実績を上回る入学生の確保ができなかった。今後の課題として安定した充足率の維持が求められる。募集広報の取り組み方についてもマンネリから脱却することが必要である。なかでもオープンキャンパスについては、内容の充実によって参加者の増員を図れるよう取り組まなければならない。

・昨年度の委員会に置いて Google 検索すると外観写真が現状と違うとの質問についての対応について、グーグル社に連絡を行い改善要請。答えとして、直ぐ改善はできないとの回答を得たためしばらく経緯を観察する。

*委員からの意見

- ・他県からの入学生の獲得状況について

（学校から：魅力ある学校の周知を図るため各種ガイダンス並びに進路担当者に対する説明会・イベントなどを通じて発信を強化し継続的な入学者の獲得に繋げたい。また他県からの入学状況については、九州山口県内から宮崎県を除くすべての県からの入学があり、その内約一割を女子学生が占めている在籍状況について説明した。）

(8) 財務

❖特記事項

- ・学生募集の成果が財務基盤の安定に結びつくことから高充足率を維持できるよう各種施策の実行を後押しする。

(9) 法令等の順守

❖特記事項

- ・法令・設置基準の順守並びに自己評価の公開等については、適切に行われている。
- ・問題点の改善等については、今後発生する問題等について早期に改善を図れるよう教職員一同が認識を共有していくことが必要となる。

5. 学校関係者評価総括

各評価委員の皆様から賜った貴重な意見や助言を真摯に受け止め、今後のより良い学校づくりに繋がるよう改善の歩みを止めることなく取り組むことが重要である。